

厳寒期がジャンボタニシの防除適期です!!

令和3年も県南部の一部地域でジャンボタニシ（和名：スクミリングガイ）による食害でイネが株ごとなくなる被害が見受けられました（図1）。

ジャンボタニシは、水田では土中に浅く潜り込んで越冬します（図2）。県南部地域で、このような貝がいる水田では、冬の防除を徹底してください。



図1 ジャンボタニシの食害により
欠株が生じた水田

図2 土中に浅く潜り越冬中
のジャンボタニシ

【ジャンボタニシの厳寒期防除を徹底しましょう】

ジャンボタニシは寒さに弱いので、厳寒期に水田の表層5cm程度を浅く削るように数回耕耘し、寒さにさらしたり、貝を破碎することで、水田で越冬する貝を減らすことができます。耕耘は尾輪を装着し（図4）、速度をゆっくり、ロータリーの回転をはやめにして丁寧耕耘（図5）ことでより高い効果が得られます。

厳寒期が防除適期です。ぜひ行いましょう。

＜防除上の参考事項＞

- 1 ジャンボタニシは主に用水路や水田で越冬する。
- 2 水田では浅く土中に潜り込んで越冬するが、マイナス3℃の条件下では2～3日でほとんどの貝が死滅する。
- 3 田植後3週間までのイネを食いちぎったり、水面に浮かぶ葉を引き込むように食害し（図3）、田植後の水深が4cmを超えると被害が増加する。



図3 イネを食害している
ジャンボタニシ



図4 尾輪の装着（矢印）



図5 厳寒期の水田の耕耘によるジャンボタニシの防除

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

